

2014年1月期6月度 月次業績動向 (2013年5月21日～2013年6月20日)
会社名 ピープル株式会社

(http://www.people-kk.co.jp/)

代表者名 取締役兼代表執行役 桐淵千鶴子

上場取引所: JASDAQ TEL: 03-3862-2768

コード: 7865 問い合わせ先 IR担当 飛田留美子

(単位: 千円)

科目	《月次の対比》			《期初からの累積の対比》			《過去12ヶ月累積の対比》		
	2013年1月期 6月度	2014年1月期 6月度	前年 同月比	12/1/21～ 12/6/20	13/1/21～ 13/6/20	前年 同期間比	11/6/21～ 12/6/20	12/6/21～ 13/6/20	前年 同期間比
売上高	172,246	209,178	121.4%	962,122	1,102,278	114.6%	2,804,302	2,991,642	106.7%
営業利益	△8,450	△15,392	N/A	△709	△60,558	N/A	211,591	95,184	45.0%
経常利益	△8,245	△60,597	N/A	1,363	△26,877	N/A	213,825	132,120	61.8%
税引前利益	△8,245	△60,597	N/A	1,357	△26,877	N/A	213,778	132,117	61.8%
流動資産	1,846,517	1,856,348	100.5%	【2014年1月期第2四半期 業績予想】 (2013年6月3日発表) 【第2四半期会計期間(2013/4/21～2013/7/20)予想】 ・売上高6億89百万円(前年同期間比16.8%増) ・営業損失34百万円(前年同期間＝営業損失25百万円) ・経常損失23百万円(前年同期間＝経常損失25百万円) 【第2四半期累計期間(2013/1/21～2013/7/20)予想】 ・売上高13億58百万円(前年同期間比11.1%増) ・営業損失65百万円(前年同期間＝営業損失8百万円) ・経常損失6百万円(前年同期間＝経常損失7百万円)					
固定資産	172,471	158,413	91.8%						
流動負債	247,922	246,041	99.2%						
固定負債	50,000	50,000	100.0%						
純資産	1,721,067	1,718,720	99.9%						
総資産	2,018,988	2,014,761	99.8%						

商品別売上高

商品カテゴリー名	2013年1月期 6月度	2014年1月期 6月度	当月 構成比	12/1/21～ 12/6/20	13/1/21～ 13/6/20	当期間 構成比	11/6/21～ 12/6/20	12/6/21～ 13/6/20	当期間 構成比
乳児・知育玩具	75,766	57,200	27.4%	316,558	352,402	32.0%	1,053,697	1,128,144	37.7%
女兒玩具	35,023	28,091	13.4%	203,610	185,188	16.8%	721,229	605,808	20.3%
遊具・乗り物	40,398	55,476	26.5%	279,437	245,666	22.3%	680,767	590,160	19.7%
その他	21,059	68,411	32.7%	162,514	319,022	28.8%	348,609	667,530	22.3%
合計	172,246	209,178	100.0%	962,122	1,102,278	100.0%	2,804,302	2,991,642	100.0%

6月度新発売商品

商品カテゴリー名	商品名	発売日	標準小売価格(税込)
乳児・知育玩具	「ピタゴラス 算数」	2013年6月3日	¥5,250
その他 (トイ・ファニチャー)	「つくえちゃん 先生」	2013年5月21日	¥13,440

当6月度では、想定していた事ではありますが玩具部門で新製品発売点数が集中した前年同月に対し下回った為、自転車部門が前年以上の出荷で補いながらも国内販売は下振れて推移したものの、好調な海外販売が寄与し、総売上高は2億9百万円、前年同月対比21.4%増となりました。

当6月度の玩具市場は、全般的に回転鈍化傾向を強め各社苦戦しています。著しい市場低迷は当社の受注にも影響していますがその逆境下、知育の高額品「ピタゴラス算数」(税込5,250円)を発売し、ピタゴラスプレート(税込12,600円)の回転も牽引し始めました。乳児・知育カテゴリーでは新製品発売が当該品1点に絞られ、当月売上高は出荷ベースで前年を大きく下回っていますが、ピタゴラス高額品2品のセルアウトは前年を上回り始めました。又、女兒玩具でも例年6月度に発売する夏季限定人形の新製品発売の代わりに当年は、人形全品に“ドレスゆかたがオマケ”キャンペーンを実施しています。よって新製品出荷が無い分、出荷ベースの売上高は下回っていますが、店舗セルアウトでは夏季限定品を含めた前年に対し微増しははじめました。遊具・乗り物カテゴリーでは、5月度に続き、自転車の大手量販店の入荷調整による増加が当月も連続し、売上高に反映しています。

又、トイ・ファニチャーでは、前年度コスト高で販売継続を断念した“対話して遊び相手になる幼児用机”を、コストダウン後「つくえちゃん先生」と改名し、当6月度に再登場しています。幼稚園前にリビングで遊んでいる内に机で集中する習慣を身につけられるベネフィットで、前年モデル購入者の満足度の高さから再発売に踏み切りました。

当月の為替動向は月初では円安に進みながらも、中盤で再び急激な円高へと短期的に上下変動しました。売上高は増収しても時価評価方式により依然原価上昇傾向が続き、当6月度も営業損失は避けられず、営業外損益では5月度に円安で時価評価益となった分を当6月で円高に推移した差が評価損となって調整されています。このように経常利益、税引前利益においても同様で、四半期決算で調整されるまで為替評価が月次で増減し損益に計上されていきます。